

会議の名称	令和4年度第4回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和4年11月4日(金) 18時30分～20時00分		
開催場所	議会棟大会議室		
出席者	※出席委員等：両角会長、守屋副会長、小平委員、半田委員（zoom参加）、鈴木委員、北原委員、藤野委員、鶴石委員、大川委員、両角（博）委員 ※市側出席者：柿澤副市長、田中企画部長、井出企画課長、平澤財政課長、朝倉行革担当、企画係 宮崎主査		
欠席者	宮坂委員、高木委員、中村委員、丸茂委員、柿澤委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	1人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
	議事 1 開会 2 副市長挨拶 3 会長挨拶 4 会議内容 (1) 改革実行項目の進捗状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> * 説明（朝倉行革担当） (2) 公共施設使用料の減免について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2、3</span> * 説明（平澤財政課長） (3) 第6次総合計画の構成等について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4、6</span> * 説明（朝倉行革担当、宮崎主査） 5 その他 (1) 次回以降の行財政審議会の予定について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span> 6 閉会  議事録 1 開会 2 副市長挨拶 1日の仕事の後のお忙しいところお疲れのところこの会議に出席していただきまして大変ありがとうございます。あと今、県の方で知事が会見すると思いますが、また新型コロナの方の感染が拡大してきたということで医療特別警報が出て、警戒レベルが5に引き上げられるということです。社会経済活動を再開していかないといけないわけですが、コロナとのつき合いが本当に大変難しいなっていう気がしている。それから行財政に絡めたことですが、いま市役所では来年度の当初予算編成に入っている。予算要求の段階で収入と支出の差が一般財源で30億近く29億ぐらい乖離があります。これをどうやって歳出を削減しつつ、収入を見ていくか、収入と支出をイコ		
企画課長			
副市長			

ールにしていくために、これから 30 億どうやっていくかという部分が出てきているが、これもまた行財政改革の部分に繋がってくる部分かなと思う。

それと、今、市長が市内 11 地区、まちづくり懇談会ということでいま回っている。9ヶ所終わり、後 2か所。まちづくり懇談会の中で出てくるものは、茅野市のまちづくりというのは区や自治会という地域コミュニティをベースとしてしっかりしたまちづくりをやってきたが、少子化と少子化に伴う人口減少とそれと同時並行で動いている超高齢化社会の到来の中で、非常に地域コミュニティの存続が難しくなっている。役員は非常に手がない。それから、1人の役員に係る負担というのが非常に厳しくなっているということで、その区や自治会の今までのやり方とか仕組みを見直していかなければいけない。そんなことも出てきている。

それから、区や自治会と一緒に市の行政とともに動いていたが、市から区・自治会にかける負担というものもやっぱり見直していかなければいけないと思う。今までのやり方が非常に通用しなくなっている。見直ししていかなければ、やはり茅野市の地域づくりは持続していかないってことだろうと思う。一つ消防団の関係で言うと、今、総合計画を作り消防団の再編を行おうとしている。それは今まで区や自治会の中でそれぞれの消防の団員が出ていたが、そこを地区の中で統合して、例えば地区の中で六つの区・自治会であればそれを三つにして、区や自治会の連携の中でもう 1 回再編していこう。それによって、効率的に消防団を動かしていこうということがある。

多分、行政の方もこの消防団と同じような形で、これから区や自治会単独でということだけでなく、いろんなテーマに沿って区や自治会と連携しながら、その部分と行政が関わって地域づくりをやっていく。こんなことも出てくるだろうと思う。

行財政改革も市の組織だけじゃなくて、やはりこの地域コミュニティも含めて、それを視野に入れながら変えていかないと、これからの茅野市がないということで、今そのような意見交換を市民の皆さんとしている。

## 2 会長挨拶

会長

改めまして皆さんこんばんは。先ほど、副市長の方から話がありましたとおりコロナの感染者も大分増えてきた中ではあるが、本日対面での会議ができたことを感謝申し上げます。

本日の会議の内容は次第のとおり、改革実行項目の進捗状況についてということで、まだ取っかかりだとは思いますが、市の方の進捗状況について報告をいただくのと、前回 9 月に審議会を開いたときに公共施設の使用料の減免について皆さんからご意見いただいたものを基に、庁内で十分検討していただいたというところの報告、それから、私たち行財政審議会と深い関わりのある総合計画審議会におきまして、今策定開始した第 6 次総合計画の進捗状況について、情報を共有しながら、また今後の行財政審議会に生かしていけたらと思っている。

## 3 会議内容

### (1) 改革実行項目の進捗状況について

・・・資料 1 に基づき説明・・・

行革担当

財政改革基本方針の中に定めてある改革実行項目について、各々の取り組

	<p>みが全部で36項目あるが、その一つ一つの取り組みについて、進捗管理シートにより示した。取組は5年間の計画で、進捗管理シートに、令和4年度から始まり、令和8年度までの単年度ごとの取り組み計画を示し、その中で半期ごとに取り組みの実績と課題があればその課題ということで記入するようなシートを作り、進捗管理をしていく。</p> <p>今年度の上半期の実績については、前回、少し口頭で説明させていただいたが示してあるとおりでである。</p> <p>取り組み評価は、自己評価として、示すところがございませんので、進捗管理シートを見直す中で自己評価ができるように、各年度末の下半期終わったところで、自己評価が示せるような形で欄を加えさせていただきたいと思う。</p> <p>更に令和5年度以降の取り組みの中で庁内でのすり合わせが十分にできておらず、取り組み計画の中で不十分な取り組み計画のところがある。これにつきましては、今年度の下半期を進める中で、改めてしっかりした計画を立てていく。また取組内容によっては、主管課が複数のところもある。それについては、担当部署ごとに、進捗管理シートを作っているため、そういった目線で見させていただきたいと思う。</p>
会長	<p>数日前にメールで送られてきたところ。皆さん十分に見ていただいたかどうかわからないが、その中で、特に令和4年度の上半期の点について、ご意見ご感想をいただけたらと思う。</p>
委員	<p>言われたように直近に来たので、ぱっと見ただけですが、5ヵ年計画で、令和4年度の上半期終わっている。なのに「取組なし」というところが目立って、5ヵ年なので、10分の1無駄にしているような気がする。</p> <p>そこについては、どうとらえているのかなという気はちょっとした。</p>
企画課長	<p>実際進捗管理で各担当課に実際に投げてみて、計画事態は、進め方としては、一応検討しているようなのですが実際に4月から9月の間の取り組みはなかったということは、特にコミュニティ活動とか、そういった部分について多かったのは、これは担当課の方の話で、コロナ禍の中で、きちんとした話し合いを持ってなかったということもあるわけですが、ただ庁内検討はもっと進んでいいのかなというの、私どもも感じる。大川委員のおっしゃったとおり、今回、かなり正直なものをだしている、これにつきまして下半期、先ほど担当も申し上げていましたが、きちんと評価できるように、きちんと取り組みの内容、取り組んでいない場合には、それに対する今後の考え方、そこをきちんと整理し、自己評価そして逆に審議会委員の方々からの評価、そういったところをよく照らし合わせをしたいと考える。</p>
委員	<p>自己評価が控え目で実際は内部検討していたが、目立った成果がないので取り組みなしだったらいいが、何も手をつけてないということであると、そもそも計画じゃないという気がした。</p>
企画課長	<p>非常に感謝しています。今のご意見もきちんとお伝えして、次の評価につなげていく。</p>

委員

この改革実行項目っていうのは、前年度の3月に答申したものを展開して予算にも反映されてないので、今の上半期にそれでどんどんやれないっていうのは、当然だと思うが、ざっと見た印象でコメントさせていただくと、やっぱりスピード感が出てない。スピード感が出てないっていうのは上半期だからっていうのではなくて、取り組み計画を見ても、これは非常に大ざっぱな大日程をただ書いてあるだけで、担当部署っていうのは当然中日程、或いは小日程、担当の〇〇さんが今月はここまでやるんだというような、そういう小日程管理まで落とさないとスピードが出ないと思う。それで担当の人は非常に忙しくて言ったことはとてもできなかつたら、ちょっと暇な理解のある方が応援にまわるとか、そういう部署管理をやって、小日程管理まできちんとやるような、我々に細かいことまで報告しろとは言いませんが、このページの裏で部署としてはそこまで落として管理しているんだ、というようなことをぜひお願いしたいと思う。

それからもう一つ、取組計画の言葉を見ていると、検討ってことで終わったり、検証で終わったりがものすごく多い。ただ検討は、検討しました、はい、さようなら、だったら何にもならないので、検討した時には必ずその上半期下半期のどこかで、検討結果の報告会を、関係の他の部署の人たちも、できれば入ってやっていただいて、検討結果は、もう今のままで十分だからもうこれ以上しなくてもいいっていうこともあるかもしれないが、検討結果が、予算に反映されていくような進め方っていうのは必ず必要になってくるので、そういう落とし方を、この計画の進め方の中で各部署がきちんと抑えられるような指導をお願いしたいと思う。

企画課長

おっしゃるとおり、取組計画っていうのはかなり大まかな項目になってしまっていて、実際に進めているところについてはきちんとした、いわゆるロードマップみたいなものを作りながらやっているところもある。そういったところがどこも一律で、きちんとさせて、評価としてはこれですけどもそういった裏付けがあって、進捗管理のところを庁内できちんとすり合わせをして、細かなものをお出しした方がいいかと思いますので、その仕組みについてはこれから考えさせていただく。

副市長

委員さんご指摘のとおりやはりどういうふうにスケジュール工程表を組んで、そして、この年度この年度1年間の中で時期を区切って、そしてどういう成果を得ていくかという事業の評価をきちんと組み込んでいかないとこの行政評価もできないと思います。4次総までは事務事業評価・行政評価の中で総合計画行政評価ということで進行管理をして、今年市長がこういう経営方針でいく、それを各部長が受けて各部はこういう経営方針でいくので、各課が方針ということで重点事業を挙げて、年間スケジュールを組んで進行管理をやっていたのですが、5次総になったときにいわゆる総合計画は基本構想だけにして、それで、各担当の個別計画はそこにカートリッジ式に入れていくっていう形になり、進行管理ができなくなりました。改めて、今、もう1回進行管理をしていこうということで、当然市長の経営方針を毎年出してそれを各部各課が受けていくという形でもう1回再構築することを内部でも進めている。それができ上がったなら、この行革にも組み込まれていく形になる。ばらけてしまったところがあって、その辺は、きちんとできなくなったところですので見直しをしている。

委員	<p>もうほとんど二人と一緒になんですけども、あえて言わせていただければというと、計画の精査をきちんとしていないと実施は難しいということで、見ても計画の精査が首をかしげるところがいっぱいあるので、そこは見直しをぜひお願いしたい。</p> <p>あと具体的な内容として今回の行財政改革をやる時に、「未来型ゆい」っていうのは非常に、これから重要になるって話があったが、残念ながら取り組みに一言も「未来型ゆい」が出てきていない。「未来型ゆい」を通して何をやるようとしているのかももう少しきちんとして落とせないと、何も変わらなかったって感じになりそうなので、そこはきちんとしていただきたい。それからあえて言わせていただければ、17ページ。担当を見ると企画課そのものなので、あえて言わせていただくが、最後まで検証をするまで終わっているが、狙いは検証じゃないので、具体的に実施する事項をここへ書いてもらいたいということで、他にもいっぱいあるので、計画の検証をよろしくお願いしたい。</p>
委員	<p>18ページを見ていたが、課題で、人材の拡充が必要ということで、こういうところが幾つかあったが、多分そんな簡単に拡充できることではないし、こう思っていたらずっとできなくて終わる気がする。この場合だと、プロジェクトチームを作るという話ですが、必要であればつくればいいし、兼務している限りは、なかなか業務がいっぱいあってっていうことを繰り返すので、もしこのやり方がまずいのであれば、やめるという結論もありだし、5ヵ年計画ずっと検討していくってことはできるが、どこかの総理大臣のように検討し続けてもしょうがないので、作ってあげてもやはり違うってうときは別の方向を見た方がいいとか、そういうこともありなのかなと思うので、検討していただきたいと思う。</p>
会長	<p>いい意見ありがとうございます。また事務局でしっかりもんでいただくのと、チェックする機能がなくなってしまったというようなこともあるので、しっかりこちらの方も構築していただいて、進めていただきたいと思う。改革項目についての進捗状況については、以上とさせていただきます。また、何かありましたらメール等で、提案していただきたい。</p> <p>それでは(2)番の公共施設使用料減免について、こちらについて、まず事務局より報告をお願いします。資料は、両面刷りの、資料2資料3。</p>
財政課長	<p>(2) 公共施設使用料減免について</p> <p>・・・資料2、3に基づき説明・・・</p> <p>前回、第3回の審議会で、公共施設の減免について、各委員から様々なご意見をいただいた。総じて減免だけを考えるのではなくて、施設の目的、使用料の設定の仕方を含めて検討すべき、というようなご意見だったかと思う。個別具体的には、資料2に挙げさせていただいてあるとおり、修繕費だとか稼働率の問題、また使用料の引き上げ、また、減免の目的、狙いにあるかどうか、妥当か、そのようなご意見をいただいた。それを踏まえて、庁内で次回の見直しに向けての検討を行った。その結果、資料3にスケジュールを示させていただいた。</p> <p>次回の見直しが、令和7年4月に新たな使用料の設定ということで、これに向けて、スケジュールを作った。この10月から「施設使用料の算出に関</p>

	<p>する基本指針」の改定案の庁内検討に入っている。来年の6月くらいをめどに素案を策定し、またこの審議会でその素案についてのご意見を伺って、来年度の後半から、減免または使用料の新たな改定の検討に入っていきたいということで、目標としては令和6年度の12月議会に新しい使用料の案を提出し、令和7年度の4月から新たな使用料また減免の内容についての設定を考えている。</p>
会長	<p>確認ですが、その施設の使用料の算出に関する基本方針というのが、令和元年度ぐらいのもので、前回の資料の中にあっただかと思う。その中に減免のことも少し触れてはいたが、結果的には算出方法をもう1度、1から見直すということを検討いただいたということと、その中で、もう少し減免についても、庁内の方で規定をしっかりと作った上で、また、審議会の方に諮りたいというようなことでよろしいか。</p>
財政課長	<p>はい、そのとおりです。</p>
会長	<p>ということになりましたので我々がいろいろ意見を言って議論してもまとまらないというところもあったので、そちらの方は庁内でしっかり検討いただいて、次回の審議会に向けて進めるということになったので、ご了解をいただきたいと思う。</p>
委員	<p>実は前回いきなり減免という議論になって、皆さんの方にいきなり減免と言っても、なかなか議論を進めるのに難しいという話があったので、減免に関してどういう考え方がよいか整理して論点を進めていけばいいかなと思って考えてきた。やっぱり五つぐらいはやはりきちんと押さえておかなきゃいけないなと思ったものを書いてきた。</p> <p>1つは、その公共施設は必要なものなのかどうかっていう検討をまずしないと駄目だと。2つ目は、利用料減免って言っているねらっていうのは運営経費の削減っていうことに目的があるので、利用者を増やして経費バランスを取る方法が本当はないのかどうかっていう、ある意味知恵出しと検討というのをやらないと減免だけ切り出してこう議論するのは難しい。</p> <p>3番目は、施設の利用料がこれから出てくると思うが、他の市町村の同類施設とか民間同類施設と比べて妥当かどうかっていうことも押さえておかないと、もともと妥当でなかったら、そこから減免しても何も意味がなくなる。4番目は、減免の目的に合わせて減免対象利用者に対する減免率が、その目的に合わせて妥当かどうかっていう検討がまた必要になってくる。5番目は、減免率を安易に縮小してしまうと、利用者の減少を招いて、利用料総額の悪化に繋がる場合があるので、そういったことになるかどうかという検証も、判断としてやっていかなきゃいけない。この5点ぐらい押さえていかないと最終的には、この減免でいいという結論にはなかなか持っていけないんじゃないかなと考えてきた。</p>
財政課長	<p>ありがとうございました。参考にさせていただいて、検討させていただきたい。</p>
委員	<p>この減免の話っていうのは、最終的にはまた施設の統廃合であるとか、施設の廃止の問題にどうしても繋がる話になってくると思うし、それから、減</p>

免の基準を作る時も、その減免は本来的には補助で、予算に出てこない補助なので、申請が本当に必要ないのかどうかとか、減免基準の厳格化とか、そういうのが施設ごとにあんまり差があると良くないと思うし、だから、やっぱり統一的な判断ができるような仕組みづくりをするとともに、これからデータに基づいたいろいろな政策決定やっっていかなきゃいけないので、減免したのがどういう類型でどういうふうになっているかというのが、今、行政情報として取り出しやすいのかどうか。取り出しにくいとすれば本当は、減免じゃなくて補助金を交付するというやり方で予算化して見える化したほうがいいぐらいだとは実は思っているが、それもちょっと面倒だが、補助見合いの減免っていうやり方をよく皆さんで認識してもらって、ちゃんとやっっていかないと、やっぱり減免の申請に流れるのは、どうしても、という感じを持っているので、その辺りはぜひご検討いただきたい。

### (3) 第6次総合計画の構成等について

行革担当

第6次総合計画については6月に開催した第2回行財政審議会で、第5次総を見直すのではなくて第6次総を新たに策定していくことを説明させていただいた。資料4の5ページにある「これからの茅野市のまちづくりスキーム（概念図）」で行財政改革の位置的なものを確認していただき、「これまでのまちづくりの仕組みづくりの見直し」として、行財政改革があり、それが総合計画という目的のための手段であると説明させていただいた。総合計画は、総合計画審議会の方で進めているが、行財政審議会でも内容等について情報共有をし、意見を伺い、その意見についても総合計画審議会と共有していくということで、この「第6次総合計画の検討経過と今後の流れについて」を説明する。

資料6に基づいて説明する。

主査

資料4に基づいて説明する。

会長

説明ありがとうございました。ちょっと盛りだくさんでしたが、今説明いただいた内容についての質問、ご意見等がございましたらお願いしたい。

委員

最初の方にあったウェル・ビーイングが良い状態とのことですが、まずお聞きしたいのは、茅野市の良くない状態は今例えばどういうところにあるのかを見てらっしゃるのかということをお聞きしたいのと、あと、よくあるのが若者と年配とか流入してくる方と、既存、従来からいらっしゃる方、茅野市って比較的そこに壁があるような印象を持っている。若者と年配の方、親であっても意見が合わないとかっていうことをそこらじゅうで聞くので、それを他人である若者と年配の方がどう交流できるのかなあとか、あと、流入してきた方と既存からいらっしゃる方のいろいろな話もよく聞くので、そういうところをどういうふうにしたら解決できるのかなっていう、案みたいなものを考えてらっしゃるのか、それともないので、案が欲しいということなのかっていうところをお聞きしたいのと、あと、もう1点、今まで茅野市の資料からはちょっと消えつつあった「縄文」という文字がやたら入ってきてるんですけども、ここに関してはどういう変化があったのかなっていうところを、お聞きしたい。

企画課長

まず初めに、茅野市の良さ悪さみたいな話ですが、総合計画審議会の中では、実は得意な部分と、弱い部分とかそういったものを実は四つに分けた構成がありまして、そういった中で、茅野市の特徴ある、これからも進めたい守りたいものと、当然、今のままではできていないところ、これから、当然見直しかないけないところを分けさしていただいて、そういった中で作られているところがある。ちょっと今、資料を持ち合わせてなくて申し訳ないが、そういうものを共有させていただきたいと思う。そういった中でウエル・ビーイングは国が申し上げているところもあるが、実際に茅野市としても、そういったところで欠点を補いながら、また長所を伸ばしていきながらという中で、それぞれの市民っていう一人一人のことを考えたときに、そこでもやはり、便利さであったりとか、住みやすさを求めていきたいということが頭にある。

副市長

縄文については、縄文プロジェクト市民会議の中でも協議をして整理をしてきたところで、どうしても今までイベント中心とかいうことで縄文をやってきた。或いは国宝土偶を売っていこうということで、それはそれで大事だが、やっぱり茅野市のルーツって、この中部山岳高地っていう縄文が一番メッカのところに尖石遺跡の茅野市があって、そのところをもう1回大事にしていこうということで、やはり縄文の持っている考え方SDGsのところに書いてあるが、1万年近く自然と共生しながら、平和の社会を営んできたというそういう現代的という意味をもう1回掘り起こして、それを茅野市のまちづくりの基礎的な価値感、基礎要綱ということで、縄文プロジェクトも、その中で尖石のきちんとした価値というものを全国に発信していく。イベントじゃなくてという方へ切り換えてきている。

多分、学術的な部分も出てくるかもしれないが、それを入れていこうということで、この総合計画の5年間と言いましたけども基本構想の中にやっぱり時間軸があって本当に長いスパンの中で、何十年という長いスパンの中でその価値観を大事にしていくっていうのが縄文で基本構想の中に入れていこうと思っている。

それから、それをもとにした5年間で何ができるのか、基本計画の中でまた事業を組み立てていかなければいけないと思うが、改めて茅野市の一番大事な部分のところへ戻ってきているとのことで、この基本となる価値観の中で入れさせていただいてある。

委員

わかりました。縄文について昨日、縄文文化賞の受賞式にもちょっとお邪魔したが、途中、行きかう街っていうのも、黒曜石の交流拠点であったり、縄文がSDGs的な考え方っていうのは、民間の方が先に言っていたと思う。それに茅野市が気づいてきたのかなっていう気がして、ちょっとうれしく思った。

委員

いっぱい言っちゃいますけども、わからない資料でした。申し訳ないですけど、わからないのは、第1に第5次っていうのがあって、第5次の何が悪かったのか。だからそれを改善していきたいとか、第5次で、もうここまでやったからその方向が良かったとか、つながりがないので、今までと同じような言葉を聞いているような気もするという感じが全体的にあるのが一つ。

それから、二つ目は、1ページから3ページに三角矢印があるが、この意

味がさっぱりわからない。1 ページでは、力を最大化するっていう矢印だと思っていいですか。そうやって見ると、その意味は、若者に選ばれる街だと、結果的に子どもからお年寄りまで暮らしやすいまちになるのか、これはちょっと違う矢印の使い方しているのかなみたいな感じで、絵で書こうとすると何か伝わらない内容かなという気がした。

それから、8 ページぐらいから、たくましく、やさしく、しなやかなっていう言葉が出てくるが、この言葉がどうもよく、正直言うとわからない。しなやかなっていうのが何を言いたいのかなっていうのが、打たれ強いまちとか、例えば、がまん強いまちなのかなんだろうって感じで、しなやかで、表現したかった内容が何だったのか、ちょっと伝わってこなかった。

企画課長

主に第5次総から第6次総っていうところですが、第5次総合計画は平成30年度からのスタートということで十年間の計画で策定してスタートしてきている。ちょうどここで5年経ち中間見直しっていうところがまず一つのポイントとなったが、その時はもう総合計画審議会の中で、一つは、平成30年から10年後の9年間にかけた計画づくりをしてきたが、ちょうどここでコロナによりかなり新しい生活様式に変わってきたりとか、実際の社会情勢とかなり変革を起こしてきている。そこに茅野市としてはDXを進めていったり、ゼロカーボンとか、そういったことの取り組みが始まってくるという中で、ちょうどここを起点に、第5次総の当初の計画とかなり取り組み方が変わってきている。社会情勢も変わってきているところから、ここで第5次総の計画を5年間に短縮し、一度終了にして、もう一度ここで立ち返った新たな計画づくりをしていった方がいいのではないか。もう一つは、やはりどうしても十年間の長いスパンでの計画よりは、5年間という短いスパンでの計画で、それぞれの変革に対応していくような計画づくりをここでし直したほうがいいのか、というご意見を頂戴した。総合計画審議会の方でも当然そういった意見で一致したところ、市としても第5次総の今までの計画の中身を、当然検証していくが、その中で、第6次総という新たな計画づくり、これを手がけていこうということで、この4月から、そちらの方向に向いて、今、作り直してきている。今は、事前の与件とか、今までの考え方、時代にあった考え方というのを、今整理している段階。

あと、小平委員がおっしゃったこの表現の矢印の意味であるが、これについてはちょっとかなり簡単に考えているところもあり、この矢印があれば、こうなるんだっていう意味合いのところであったり、その矢印のいったところで、うちの目指すべきはこっちだよみたいな、ちょっとその矢印の使い方意味というものそれぞれ統一感がないということは確かでありますので、これにつきましてはちょっと、言葉足らずなのかなというところがある。また、この資料はあくまでもダイジェスト版ですので、実際にその総合計画審議会の中では、かなり細かい資料を出している。確かにかなり大まかな資料をもってきているので、ぜひそれ以外の資料も、また行財政審議会の方々にも共有していきたい。

副市長

5年間、第5次総合計画をやってきたが第5次総合計画を作った時点では、まだコロナ前でしたし、4次にわたる総合計画を積み上げてくる中で茅野市はある程度社会基盤整備も含めて、整理できてきた、都市が成熟してきたという基調で従来のシステム、新しくまちづくり、マンパワーで支えていくような、まちづくりも実際はだいが制度疲労を起こしていたんだけれど

	<p>も、それを持続させていく成熟してきているからっていうことで、穏やかな基調で変えていくっていう計画ではなかった。やっぱりそこにはデジタルの手によっていろんな仕組みを変えていこうという考え方もなかったですし、それをやっぱりコロナにまともにぶつかの中で、やっぱりこの地域コミュニティも維持できないし、新たな仕組みの中で計画、まちづくりをやっていかないと、これはもう立ち行かないのだろうっていう、それがやっぱり総合計画審議会の中でも基調としてあって、もう1回作り直そう、全く新しい発想でやっていこう、ということが根底にある。ただ、第5次総合計画を作られてきた市民の皆さん、そして、前の市長もそこを手がけてきた。その辺のところをもう通用しないみたいな言い方はできないので、十分に5次総を尊重しながら、だけどしっかり舵を切りたいということで6次総に入っている。というのが現在の状況である。</p>
<p>委員</p>	<p>この資料の2ページ3ページで、人の力、新しい人や、若者に選ばれるまち、移住定住したい場所っていう、こういう話がありまして、多かれ少なかれ、どの地方自治体もやはり、地域の魅力、人をどう招くかっていうことをやっていると思うが、この新しい人の中に外国人とかっていうイメージはあるのかどうか、お聞きしたい。</p>
<p>企画課長</p>	<p>7ページぐらいのところ、多様性の尊重・寛容性っていうところもありまして、基本的には日本人外国人というところの区分けについて特に今提唱したわけではないが、やはり今、国の方でも課題になっている外国人人材の活用とか、もしかするとこれから定住移住の中では当然、インバウンドも含めて、外国人の方々も暮らしやすい街というのも当然考えていかないといいように考えている。特に、福祉関係とか介護人材とかそういった中でも、やはり外国人人材ってかなり今貴重になっているところもあるので、そういったところでも稼げるまちというところでも、ある程度オーソライズできればと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>まさに今お話があったとおりやっぱり働き手の確保ってというのが非常に課題になっていまして、実際、私どもでも外国人労働者が来ている。その働き方が、もちろんお金を稼ぐ出稼ぎってというのが一番上位にあるんでしょうが、それだけではなくて、日本の文化だとか、日本のルールを学びたいだとか、もっと小さいこと言えば雪を見たいですとか、結構魅力を感じている。</p> <p>非常に良い人材がいる中で、この茅野市ってというのは本当に自然というのはもう最高ですし、住みやすさというのもあると思うので、何かこうちょっとしたこう仕掛け、例えば住まい。企業側ですと、その住まいを探すのに苦労したり、いろいろなことが、片や空き家がいっぱいあるとか、そういうところをつなげるようなこと、ぜひそういった人材が住みやすい場所になるといいなと思う。</p> <p>あとなかなか給料だけでいうとどうしても都市部には勝てない。ということはやはり生活のコストをどれだけ抑えるか、住まいですとかそういったところを、少し考えると、結構魅力を感じてくれる人っているのかなと思ひまして、ぜひ、そんなことも考えていただければなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>11ページを見ていて、いろんなことをやるんだなと見ていたんですけど、</p>

とても網羅的で、完璧だなというふうに見ていて、逆に言うと、これ他の市町村に当てはめても言えちゃうっていう気がして、当然こういう計画でこういうふうにするのが正解だと思うんですけど、とはいえ、実はこれやろうと思っているよ、っていうところがあるはずで、まさかこれ全部やれるはずはないと思うんです。市民の皆さんに言わなくても、この場では、この中でもこれとこれとこれっていうのは、どういうふうを考えてらっしゃるのかお話できないですか。

企画課長

11 ページをご覧くださいとときにいつものカテゴリーがあって、もともと茅野市というところが、地域コミュニティっていうのを基本にして、市民のいろんな意見また活力、活動、そういったものを生かしながら、まず一つは、いろんな分野に、例えば福祉だったり教育であったり、そういった部分に対して、10年後の茅野市をどう考えるかっていうような議論を、きちんとしてきたところがある。そういった中で、さきほど副市長が当初申し上げましたとおり、それぞれの地域の支え合いの活動であったり、公民館活動とかそういった、今までの市民と市民の繋がり、これを大事にしていくことをやはりこれからも続けていかないと、茅野市自体での生活よりは、地域の中でそれぞれの方々が、住みやすくしていくためにやはり人の力が必要だ、それを考えている。そういった中で、今DXというようなデジタルを使ったりすることで、いわゆるそういう人たちが、やはり住みにくくならない生活しにくくならないように、そこの部分にきちんとそういう手段を使って、生活しやすくしていく。そのためには考え方としては、新たな人材が入ってこない、そういったところを支えるようになっていかないと、ただ単に今いる地域の方々を支えるのが新たな方々ではなくて、そういったことをつなぎとめるためにも、やはり新たな考え方、知識技術、そういったものを、一緒に使っていきながら、茅野市の中の市民の生活を支えていきたい。そこが一番のポイントになると思う。

副市長

さっき3ページのところで悪循環から好循環への若者の流入の部分のところがちょっと矢印わからないなっていう部分のお話ありましたが、やはり若者が流入してくるためにはやはり食べていかなきゃいけないので、働く場所であり産業振興っていうものがあって、そこできちっと経済的に裏付けがあることによって、この街の人がやってくるってことだと思う。で、やってくる時もやっぱりそうはいってもさきほど既存の集落、それからそうじゃない区に入っていない人たちとかいろいろ閉鎖領域があるんじゃないかってお話が大川さんの方からもあったが、やっぱりそのところがどれだけとれるか、安心して暮らせるか、そのときに福祉とか医療というのがしっかりしているってことが、やっぱり次の段階かなと思うが、やっぱりまずは働く場所、食えることがあって、そして、福祉医療とか安心して生活できる、そういったインフラがある。ここをまず5年間の中でしっかり整理していかないと、人って呼び込めないのかなと思うので、福祉医療の部分というのはやっぱりマンパワーが必要であるが、人がなかなかいないので、今、デジタル田園健康特区の中でデジタルの力を使いながら、そこをうまく構築したいってことで、DXの方でも鈴木さんに出ていますけど、今そんな仕組みを作っているところである。

委員

とてもわかりました。支え合うために、私も地域の活動はすべてやるよう

にして、どちらかというやっぱりお年寄りの方を、若い人が力があるから支えていこうっていうのが基本であり、人間はそうあるべきだと思うが、一方で、いや俺たちばかりやって、という意見がある。私が思っているのではなく、周りにも言う人もいる。間違っている人間は感情の方が大事じゃないですか。それを避け出しちゃうと、いやいや福祉でお年寄り大切するんですよね。僕たちに何をしてくれるのっていう、そういったよくない意見がある。でもそれが人間。ちょっと出し方を間違えるとそこの誤解を招くし、今副市長言われたとおり、とはいえそういう若者を連れてくるのに、しっかりと収入がないと駄目。そのだし方をしていって、気づいたらお金が増えていて、しっかり支える形ができていたというふうにしなないと、私、いつもそういう観点で見ているが、とても危険だし、いろいろやる中でデジ電で医療やっていきますって言われちゃうと、若者に向いているのかなっていう意見は出ると思うので、そこはとても心配に思う。

委員

一応、一方的に言えば非常に美しい言葉と、耳にやさしい言葉が目いっぱい並んでいて、言葉一つ一つにとって何も言うことはないが、実際これ本気でやる気になったときに、どうやるのっていうことが問題。昔、ブータンから王子様が来たときに、ブータンは国民の7割が幸せだっていうふうに言っていた。日本はあの時、国がどういう調査をしたか知らないけど、2割ぐらいだったか。今、茅野市民は、どのくらいの幸せを感じているかっていうことをまず掴んでおかないとこう言葉だけで書いても、何も洗い出されない。だから、区長は大変だけでも、区の少なくとも8割ぐらいの人に今あなたは幸せだと思っていますかっていうようなことをきちんとアンケートで調査してもらって、その幸せじゃないと思っている人は、そういう原因をある程度細かく分析をしていくところから出てきて、ここを優先的に潰せば、ちょっとポイント上がるね、というふうなステップがあるわけだから、そういうステップを、この紙に、配慮をきちんと押さえておいていただかないと、完全に言葉の遊びだけで5年が経っちゃう。

例えば、年寄りの場合は結構、幸せじゃないと思うのは、どっかは持病があるとか、体が痛いとか腰が痛いとかそういうことがでてくるんだけど、それは年取ってから、持病出始めてから、あれこれとやってもだいたい手遅れで、茅野市の場合は、40歳以上は毎年無料の市の健診がある。40歳以上の人がきちんと検診を受けているかっていうと、かなり受けていない。各地区には、保健補導員もあるし福祉推進員もあるが、その人たちは何もしないで、一年たったら、はい次の人ってなる。だったらDXを入れるときにきちんと、この前も言ったけど、40歳以上の人で検診受けてない人に対しては、保険補導員はうるさいぐらい言って、無料なんだから受けなさいよと言って、受診率95%ぐらい持っていくようにすれば、少なくとも若いときからいろいろこうアドバイスしていれば、増えたのも多少押さえられるし、持病も多少遅れるしということで、幸せっていう人がちょっと増えると。だからそういう施策に落とすために、現状の数値を掴む。そこから個別問題をいくつか優先度をつけて炙り出す。そういうプロセスを踏んでいかないと、書いてあることはすごい立派なんだけど、実際に何もやっていないんじゃないかっていうふうに見える。若者に選ばれる街もそのとおりで、今、茅野市は若者に選べるまちという理想的の水準が、こういうふうになったら理想ですっていうものを設定したとして、茅野市の現状は、その1割なのか3割なのか5割なのかどうなのか、そういうところをまず掴まないどこまで

	<p>何をしないといけないのかわかんない。ずっとこれ5年間やっても、どこが変わったのだから少なくとも、新規に茅野市の企業に外部から就職した人の人数は、今年度は10人だったけど、せめてそれを50人にしましょうとかいうような、数値で掴んで、そのための施策として空き家活用のこれをやりましょうとか、医療費がかかった時は3年間家賃補助しましょうとか、そういうようなことも含めて、課題を鮮明に出して、対策を練っていかないと、言葉の理想を言ったようになっていく。これだけ見ると、これはこれで、一つのまとまった資料としてなくちゃいけないが、これを進めるための下に、しっかりと現状認識と、基の物事がこうなんだっていうものをきちんと決めて、その間にアイデア、いろんな提案をいっぱい出して、受けて優先度をつけるということをやりたい。でないと、これ5年経っても、10年後でもこれをそのまま使える資料になってしまう。</p>
<p>会長</p>	<p>これはまだ計画の構成等なので、今後の総合計画審議会の方でしっかりとんでもらうということをお願いします。</p>
<p>企画課長</p>	<p>今回の計画作りに対して、政策を立てるためのアンケート調査をしてきているが、その中の結果で一番面白かったのが、今までは、割り合い高齢者の方の回答率が多くて、若者はあまり少ないっていうのが大体だったが、今回は20代30代40代と、大体平均した回答がある。いろいろ分析をしているところ。またその結果もだして、総合計画の中で反映していこうということも一つ考えている。</p> <p>あと鶴石委員がおっしゃるとおり、今までも茅野市はいろいろな施策は出してきて実行しているが、実はなかなか今おっしゃるようなストーリーとか脈絡の中できちんと、これをやるためにこれを用意したんだ。これをやったから今度これをやるんだ、っていうようなところがなかなか見えにくかったところもある。今でも例えば健診のことで、やはり茅野市の中で国保しか把握できない中で、実際、民間とか、そういったところでそういった検診の部分、そこでも把握しない場合でも進めていくような、そういったこともこれからはやはりデータとしてきちんと活用していくことが必要と思っている。そういったことも含めてこれから、いただいたようなご意見を参考にして、一つ一つ積み上げていきたいということをしていきたいと思う。あとこういったご意見を、ぜひお願いしたいと思う。</p>
<p>副市長</p>	<p>第5次総合計画の中で地域経営の最終ゴールってあるが、これが6次総の中で掲げられるかっていうとそうじゃなくて、この使命っていうのは、例えば企業とか最近パークスとかいろいろ言いますが、やっぱりこの茅野市として存在している意味は何なのかっていう時に、茅野市っていう、一つの団体、市民の皆さんが構成員となる茅野市の存在意義ってのはやっぱりその中にいる人々、一人一人の幸せっていうものが実現されているというのが茅野市がある意味だ、ということで、この使命として、総合計画としてはその下の目的の目指すまちの将来像ということでそういう実現するために、例えば、非常に経済的に活発なる交流拠点を作っていく。それによって一人一人の構成員を幸せにしていこう、ということで、これは茅野市が、なぜ存在するかっていう意味でここを押さえてあるものです。ただ鶴石さんおっしゃるとおり、一人一人の幸せをどういうふうに計るのは非常に難しく、総合計画審議会のドクターの小口先生からも話があったが、一人</p>

	<p>一人の幸せの実現という出し方をしてしまうと、どういう価値基準というものをそこに出していくか、設定するには難しいと。何々のまち、これこれのまちを作りますとか目指します、っていうことだったらやっぱり、まちづくりとして設定しやすいけど一人一人の幸せという設定の仕方が非常に難しいだろうと、ウェル・ビーイングっていうことで確かにいろいろ言われていますが、それをまちづくりの中のところへ目標として掲げてしまうとその成果指標みたいなもの含めて、これは非常に設定しづらいだろうというのは、鶴石さんのご指摘のとおりかなというふうに思う。</p>
<p>会長</p>	<p>zoom で参加している委員さん。よろしくお願いします。何か感想でも構いません。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど意見が出ていた若者に選ばれるまちで、データやそういうものを取った方がいいのでは、というご意見があったと思うが、DX 推進の方の会議に出席させていただいている中で、東海諏訪高校の皆さんが、生徒の皆さんにとってアンケートが共有されていたが、高校生だと若すぎるのかっていうところはちょっと何とも言えないが、結構、衝撃的なアンケート結果で、茅野市は魅力的ではないとか、住みたいと思わないみたいな、ちょっとそういう意見が、リアリティがあって私としてはすごい参考になるかなというふうに思ったのでこちらの会議でシェアしていいものなのかとか、ポリシーがそのままいいのかっていうところはあるが、若者に選ばれるまちという目標を掲げている以上、一つの現実として、データとして、みんなでも共有しておいたほうがいいのではと、話を聞きながら思った。</p>
<p>委員</p>	<p>この資料はイメージで、別に概念の話ですから、別にこれをとにかく言うつもりはなくて、普通に仕上げてもらえばいいのかなというふうに思っている。私が知りたいはこれよりもっと一番下げた具体策。そこをどうするかっていうことがすごく肝心なところで、そこの中で、やっぱり一つ外しちゃいけないのは先ほど副市長さんがおっしゃったとおり、茅野市の特徴を生かし、っていうことを何に生かすのか、何をどう生かすのかっていうことだと思う。そこがちょっと弱い、というふうに思う。ですから、ちょっと茅野市の強みというか、特徴というか、いうものをあげつらうことは省略しますが、やはりそれはあるわけで、常々私はいろんな会議っていうか、この場でも言っていますが、産業があって観光もあって、というところだと思う。だからそういうところを使っているのも一つ、いずれしろそういう観点というのをもっと前面に出して、もっと集約してもいいのかなっていうような感想を持った。</p> <p>ここまでの会議でもずっと何かこう、もやもやしているっていうかすっきりしないっていうのはなぜかという、数値目標がない。先ほど鶴石さんもおっしゃったとおりだが、ゴールがどこなのかわからん、っていうところが正直感じていて、繰り返すが、この概念図のもうちょっと一番下の具体的に、これを進めていけばハッピーになると、ハッピーっていうのはやはり数値化するのすごく必要だと思う。例えば、収入はこれをやれば歳入はこれだけになりますとか、人口はこれだけになれば歳入はこれだけになって、というようなところとか、移住者がこれだけ増えれば税金がこれだけ増えますとか、そういうようなところ。何をすれば、数値的にどうなるのかっていうのは我々民間人とすれば当たり前の話で、それがあからこそ計画だ</p>

	<p>っていうふうに思う。全部数値を出せるわけではないが、落とせるものは落とすってところで、ゴールを決めるってということが、こういう計画の中ですごく大事なことだと思う。</p> <p>もう一つは、先ほど副市長もおっしゃったが、茅野市に来る意味っていうか、若者が定住する意味っていうかは、やはり雇用と住むところだと思う。ちょっと私も高遠にいた経験から言うと、空き家の対策がすごく充実していて、空き家がでましたってアップされると、飛ぶようにはじから売れていく。それで移住者がどんどん増えてくるっていう中で、残念ながら年寄りが多かったっていうところが正直あるがそこは若者であって欲しいというふうに思っている。来たからには仕事をしなきゃいけないっていうことで、先ほどおっしゃったとおりの雇用がセットで、紹介を受けて、定住に繋がるというような流れっていうものがうまくできないかどうかっていうのを思っていて、すでにちょっとその仕組みがあって私も不勉強なのかもしれないが、地元の不動産業者と、どれだけ連携して、そういった取り組みができていて、今どれだけの移住者が、取っかかりとして見つけやすい状況になっているかとか、借入れが必要で若い人だったらローン組まないといけないとすれば、それをどうやって金融機関と連携してやっていくかとか、今、移住ローンとかあるが、そういったもので、なるべく金融機関の協力を仰ぐとかそういう繋がりを作ることが具体策だと思う。例えばの例ですが、そういうところを一段掘り下げたところを見たいし、我々はこれを多分これからウォッチしていくっていうことが仕事になると思うが、総合計画の中でもこういうことをやられていくのであれば、そういったところを数値目標を決めて、それができているかできてないか。具体的な取り組みはどこまで行ったのかっていうことを見ていくというのが、本来の我々の役割だし、その計画というものの姿かなと思っている。</p> <p>5 その他</p> <p>(1) 次回以降の行財政審議会の予定について</p> <p>資料5の行財政審議会スケジュール予定で今後のスケジュールについて説明。次回、1月下旬を予定。</p> <p>総合計画の策定を進めるにあたって、これから設立するDXの協議会やこの行財政審議会、総合計画審議会の合同で説明会のような会議を設け、同じ目線で情報共有を図りたい。年明けの1月になるかわからないが、その節は、よろしくお願ひしたい。</p> <p>全体を通して何かあるか。</p> <p>第5次総の計画は、10年だったものを5年に短縮して、第6次総が5年のもので新たに始まるっていう認識でいいですか。</p> <p>あと、1点、冒頭副市長さんの方から、新年度予算の要求の乖離が30億あるという話があったが、それはどういうところで乖離が出ているのか参考までにお聞きできればと思う。</p> <p>予算の関係で、今まで事業をやってきて、例えば美サイクルセンターを作ったとか或いは中央病院が新しく増築になったりとか、その起債、当然借り</p>
行革担当	
企画課長	
会長	
委員	
副市長	

<p>企画課長</p>	<p>入れするので、その借入の償還の元金がここへ来て増えてきているものがある。また、永明小中学校の事業も当初全体事業費 90 億ぐらいだったが、道路とかいろいろな事業をやって、ここへ来ているような資材とか労務単価なんかも上がってきて、1.1 倍ぐらいになり 100 億を超えてしまうところで、その事業の部分も今後また起債している部分があるので、多分令和 7 年 8 年ぐらいから起債償還が出てくると、また財政を圧迫するというので、私どものやってきた部分に起債償還等が大分ここで入ってきて、義務的な経費として入ってきている。あと新規の部分もある。</p> <p>総合計画のことですが、まず 5 次総というのは当然平成 30 年から 10 年間で、あと 4 年間あるが、これを見直しをかけるときに、もう 5 次総をここで上書きをして 6 次総にするということは、10 年間の期間を 5 年にしまして、そこから 6 次総の新たな計画を作るという考え方になっている。</p>
<p>副会長</p>	<p>6 閉会</p> <p>大変お疲れ様でした。貴重なご意見ありがとうございました。それでは第 4 回茅野市行財政審議会をこれで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>